

研修・業績発表

1 学会・研究会及び研修会への出席 (H28.4～H30.3)

年 月 日	学会・研究会・研修会の名称	開催地	出席者数
H28.5. 11	GLP 研修会	当所	15
5. 27	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省	1
6. 6	食肉衛生検査所業績発表・特別講演	食肉衛生検査所	1
6. 24	全国市場食品衛生検査所協議会関東ブロック協議会	千葉市	1
7. 1	食品検査機関連絡会議	当所	15
7. 12	質量・計量マネジメントセミナー	東京都	1
7. 28～29	微生物試験の精度管理コース	東京都	1
8. 26	全国食品衛生監視員協議会第 56 回関東ブロック研修会	横浜市	1
9. 9	食品衛生学会特別シンポジウム	千葉市	1
9. 14	地域保健総合推進事業に係る関東甲信越静ブロック会議	千葉市	1
10. 28	指定薬物分析研修会議	東京都	1
10. 28	全国食品衛生監視員協議会研修会	東京都	1
11. 17～18	全国衛生化学技術協議会年会	青森市	1
12. 2	FDSC 食品衛生精度管理セミナー	東京都	1
1. 18	PMDA 査察 GMP 調査 (オブザーバー参加)	茨城県	1
1. 24	PMDA 査察 GMP 調査 (オブザーバー参加)	千葉県	1
1. 21	食品科学研究のための基礎セミナー	東京都	2
1. 27	地衛研全国協議会関東甲信越静支部理化学研究部会	さいたま市	6
2. 9	厚労科学研究シンポジウム「食品添加物を巡る研究最前線」	東京都	1
2. 9～10	地衛研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	山梨県	1
2. 27～28	千葉県衛生研究所アレルギー物質検査実地研修	千葉県	1
3. 9	群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会	当所	15
3. 10	食品衛生監視員等研修会	県庁	1
3. 14	アジレントトリプル四重極 GC/MSMS ユーザーミーティング	東京都	3
3. 15	精度管理研究会	当所	15
3. 15	食品検査技術研修会	当所	15
H29.4. 21	食品検査機関連絡会議	当所	16
5. 11	GLP 研修会	当所	16
5. 18	薬事衛生管理研修	和光市	1
5. 26	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省	1
7. 6	アジレント GC/MS 研修	東京都	1
7. 27～28	微生物精度管理セミナー	東京都	1
8. 10	SCIEX タンパク質・ペプチド・核酸 BioAnalysis	東京都	1
8. 25	全国食品衛生監視員協議会第 57 回関東ブロック研修会	さいたま市	1

9. 13	地域保健総合推進事業に係る関東甲信越静ブロック会議	千葉市	1
10. 2	厚労科学研究シンポジウム「ISO/IEO17025 企画解析」	東京都	1
10. 10	埼玉県衛生研究所「精度管理研修会」	埼玉県	1
10. 12	精度管理研究会	当所	14
10. 12	食品検査技術研修会	当所	14
10. 13	指定薬物分析研修会議	東京都	1
10. 27	全国食品衛生監視員協議会研修会	東京都	1
11. 16~17	全国市場食品衛生協議会全国大会	岡山市	1
11. 21~22	全国衛生化学技術協議会年会	奈良県	2
12. 1	FDSC 食品衛生精度管理セミナー	東京都	1
1. 17	地域保健総合推進事業に係る関東甲信越静ブロック会議	千葉市	1
1. 26	地衛研全国協議会衛生理化学分野研修会	東京都	1
2. 3	群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会	がんセンタ ー	2
2. 16	地衛研全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	横浜市	2
2. 27	日本食品衛生学会特別シンポジウム	東京都	1
2. 15~16	地衛研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	長野市	1
3. 9	群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会	当所	14
3. 9	日本食品衛生協会「リステリア・モノサイトゲネス検査法実習」	東京都	1
3. 13	食品衛生監視員等研修会	県庁	2

2 当所で受け入れた視察、研修

年 月 日	団 体 名	人 数	目 的
H28.5. 11	GLP 研修会	82	GLP 研修、検査施設の見学
6. 6	群馬大学医学部医学科	10	見学・研修
6. 13	野沢地区三部会合同研究会	37	見学・研修
6. 17	農林大学校	15	見学・研修
7. 7	JICA つくば(国際耕種株式会社)	15	JICA 研修生の検査施設見学・研修
7. 27	食品科学教室	23	小学生高学年対象の体験型研修
8. 3	食育・健康フェスタ	105	出張体験実験
8. 24	インターンシップ研修	2	見学・研修
8. 29~ 9/2	インターンシップ研修	2	見学・研修
9. 1	インターンシップ研修	3	見学・研修
9. 5	食のステップアップセミナー	10	見学・研修
9. 15	生協コープネット事業連合品質管理部	2	情報交換・研修
10. 14	前橋東高校	23	見学・研修

10.	24～26	高崎市保健所生活衛生課	2	残留農薬検査研修
10.	28	県民の日記念公開行事	53	見学・体験研修
11.	1	群馬大学医学部保健学科	40	見学・研修
11.	7	富岡保健福祉事務所、研修医	2	見学・研修
11.	16	高崎パース大学検査技術学科	65	見学・研修
12.	1	食のステップアップセミナー	12	見学・研修
2.	21	食肉衛生管理者登録講習受講者(全国食肉学校)	52	見学・体験研修
2.	24	熊谷市土地改良事業推進協議会	28	見学・体験研修
3.	7	インターンシップ研修	1	見学・研修
3.	15	精度管理研究会	36	精度管理研修
H29.4.	27	薬剤師会環境衛生試験センター	5	見学・研修
5.	11	GLP 研修会	82	GLP 研修、検査施設の見学
7.	6	JICA つくば(国際耕種株式会社)	10	JICA 研修生の検査施設見学・研修
7.	27	食品科学教室	20	小学生高学年対象の体験型研修
8.	2	健康フェスタ	90	出張体験実験
8.	25	インターンシップ研修	2	見学・研修
8.	28	群馬大学医学部医学学科	1	見学・研修
8.	31	静岡県経済農業協同組合連合会	10	見学・研修
10.	24	産学官連携による食の安全理解促進事業(高崎健康福祉大学)	45	見学・研修・グループワーク
10.	30	群馬大学医学部保健学科	40	見学・研修
10.	31	産学官連携による食の安全理解促進事業(高崎健康福祉大学栄養学科)	43	見学・研修・グループワーク
11.	2	量子科学技術研究開発機構	2	見学・研修
2.	16	市野井水利組合	21	見学・研修
2.	20	食肉衛生管理者登録講習受講者(全国食肉学校)	61	見学・研修
2.	23	明和学園短期大学生活学科	7	見学・研修

3 紙上・学会等での発表

学会・研修会等

食肉(牛肉)中の有機塩素系農薬分析法の検討: 岡田智行、小池有理子、河田康克、庄司正、須藤律子、須藤和久、平成 28 年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会、2017(1月)

有機塩素系農薬(BHC、DDT、ドリソ剤)に

ついては既に使用されることのない農薬であるが、化学的に安定であることから継続して監視が必要である。食肉では飼料から家畜体内に取り込まれる可能性を考慮して検査による監視が必要と考えられている。

当センターでは、有機塩素系農薬のうち、

-BHC、DDT、ヘプタクロル、アルドリン及びディルドリン、エンドリンの5項目を分析対象としてガスクロマトグラフ質量分析装置による測定を行う分析法を検討した。分析法は、冷却遠心分離に固相抽出カラムを用いた精製を組み合わせた前処理法を検討し、固相抽出カラムの条件としてC18(2g、アセトニトリル/エタノール(1:3)20mL溶出)、GC/PSA(0.5g/1g、アセトニトリル/トルエン(3:1)20mL溶出)を採用した。また、一部の農薬で強いマトリックス効果が認められたため、マトリックス検量線による定量を採用した。この分析法について、妥当性評価試験を実施した。

食品から検出された菌の簡易同定検査について：森尾和美、群馬県食品衛生監視員等研修会、2017(3月)

平成28年度に実施した検体から検出された菌について、簡易同定検査を行った。それらの概要について結果を報告した。

アレルギー物質検査における表示違反事例について：河田康克、小池真悠理、西山美江、板野美和子、須藤律子、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2017(3月)

当センターでは、消費者庁次長通知「食品表示基準について」別添 アレルゲンを含む食品の検査方法に準じて、平成15年度から県内に流通する加工食品を対象に特定原材料7品目(卵、乳、小麦、えび、かに、そば、落花生)の検査を実施している。平成28年度、卵または乳を対象項目とし、それぞれ40検体の収去検査を実施した。そのうち、表示と異なる結果となった検体は卵2検体、乳3検体であった。卵のコンタミネーションがあった1検体において乳の検査も行ったところ、乳の表示がなかったが、乳が検出された。

特定原材料を表示していない検体から特定原材料が検出された場合、検査を行った品目だけでなく、他の品目についても確認する必要があると推察された。

県内に流通する香辛料及び調味料の微生物学的実態調査：小浦方久美子、大場浩美、森尾和美、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2017(3月)

平成28年度食中毒菌衛生実態調査で実施した香辛料・調味料の検査結果について、とりまとめ、その概要について報告した。

QuEChERS法を基にした食品中の残留農薬一斉分析法の検討：小池有理子、岡田智行、庄司正、須藤和久、第54回全国衛生化学技術協議会年会、2017(11月)

当センターでは、食品中の残留農薬検査を厚生労働省通知(食安第0124001号)に準拠した一斉分析法で行ってきたが、この分析法は前処理に多くの時間を要するため、より簡便な「QuEChERS法」を改良した分析法への移行を図っている。

夾雑物の少ない野菜・果物を対象として開発した一斉分析法について、GC-MS/MS測定におけるマトリックス効果への対策として、擬似マトリックス(PEG300)を用いた検量線と、試料由来のマトリックス(サンプルマトリックス)を用いた検量線の比較を行った。その結果、サンプルマトリックス検量線を採用した分析法について、夾雑物の少ない野菜・果物を代表する食品として「りんご」、「きゅうり」を対象とし妥当性評価試験を実施した。本発表ではその結果について報告した。

平成29年度計画検査における牛乳の成分規格基準違反事例について：大場浩美、齋藤美香、紫藤哲生、森尾和美、群馬県庁臨床検査技師会第36回学術研修発表会、2018(2月)

当センターでは、食品衛生法等に基づき、県内で製造した食品や流通している食品の検査を県で策定した「食品等検査計画」に従い実施している。食品衛生法では食品の成分規格等が定められ、これらの基準に係る試験検査結果は直接、行政措置に反映される。

平成29年9月25日に県内6保健所管内で収去した牛乳、加工乳および乳飲料の計14検体について、当センターの試験検査実施標準作業書に従い、一般細菌数および大腸菌群の検査を実施した。その結果、一般細菌数は全ての検体で

成分規格に適合していたが、大腸菌群は1検体で陽性が確認され、成分規格違反であった。牛乳製造者には食品衛生法第54条に基づき、保健所から回収命令が出され、回収措置を講じた。なお、当該牛乳に係る健康被害は報告されていない。

平成29年度食品微生物検査実施状況について：森尾和美、群馬県食品衛生監視員等研修会、2018（3月）

平成29年度に実施した微生物検査の概要について結果を報告した。

群馬県食品安全検査センターにおける公的認定試験検査機関への取組み：板野美和子、柴田雪乃、西山美江、河田康克、小池真悠理、須藤律子、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2018（3月）

当センターが実施する試験検査の結果は直接行政措置の根拠となることから、十分な信頼性を確保することが重要である。そのため、医薬品、化粧品、健康食品、危険ドラッグ及び家庭用品の検査においては医薬品等GLP（Good Laboratory Practice）を定め、これに基づき試験検査を実施し、検査結果の信頼性確保を図ってきた。このうち医薬品検査に関しては、平成24年3月に日本が医薬品査察協定及び医薬品査察協同スキーム（Pharmaceutical Inspection Convention and Pharmaceutical Inspection Co-operation Scheme：PIC/S）に加盟申請したことから新たな品質システムの実行が求められることになった。公的認定検査機関である当センターにおいても、従来の医薬品等GLPとは別の、PIC/Sに対応した新たな品質システムの整備を行った。

新しい残留農薬一斉分析法の妥当性評価、小池有理子、岡田智行、庄司正、須藤和久、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2018（3月）

当センターでは、食品中の残留農薬検査を厚生労働省通知に準拠した方法で行ってきたが、この分析法は抽出、精製に多くの時間を要するため、より簡便で迅速なQuEChERS法を取り入れ

た新しい一斉分析法を確立した。

供試試料は夾雑物の多寡によってグループ分けし、グループ毎に抽出、精製の方法を変える分析法とした。GC-MS/MS測定におけるマトリックス効果への対策として、試料由来のマトリックス（サンプルマトリックス）を用いた検量線を使用した。

本分析法を用いて、夾雑物の少ない野菜・果物を代表する食品として「りんご」、「きゅうり」、「パイナップル缶詰」、夾雑物の多い野菜・果物を代表する食品として「キャベツ」、「グレープフルーツ」を対象として妥当性評価試験を実施し、その結果について報告した。